



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会 歴史文化部会

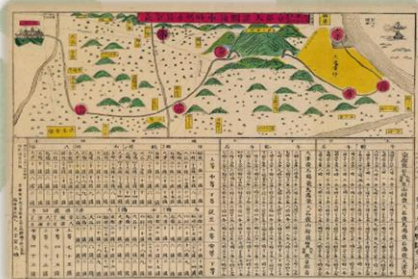


第22回 旧東海道線と京阪電車

【旧東海道線】

文明開化の旗印の下、何事にも近代化が急がれた明治の初頭、東京～京都間の鉄道の建設も始まり明治13年に京都～大津間が開通しました。当時の土木技術では長いトンネルを掘ることができなかったため、京都から南に向かい伏見から山科盆地に入るコース即ち、京都→稲荷→山科→大谷→馬場（現在の膳所）→石場→大津（現在の浜大津）と駅が設けられ、浜大津からは連絡船で長浜に結ばれていました。

● 京都・大津間汽車時刻
及賃金表 明治時代
大津市歴史博物館蔵



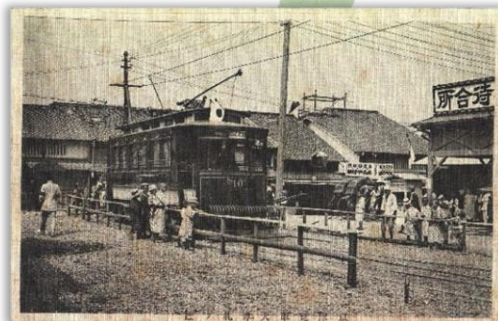
旧藤尾小学校が、旧東海道線に近かったからだと思われそうですが、校長室に保管されている当時の日誌によると、明治天皇が上洛される御召列車が通過するたびに全校生徒が線路脇に整列して奉迎した記録が残されています。

この路線で唯一のトンネルが大谷から馬場に抜けるための逢坂山トンネル（全長664.8m）です。（大谷側の西口跡にはトンネル跡の石碑が残されており、また東口側はトンネルの遺構がそのまま鉄道記念物として保存されています。）

この路線は、大正10年に現在の東海道線が開通したことで廃止されましたが、廃線敷きは山科から大谷間は名神高速道路の道路敷きになっています。

【京阪電車】

● 京津電車札の辻停車場
(昭和初期の絵葉書)



大正元年8月に、京津電気鉄道が古川町（京都東山三条）と大津札の辻間に開通しました。現在の京阪電車京津線ですが、当時は札の辻から浜大津までは「突き抜け」と呼ばれる細い道だったために、札の辻が終点になっていました。（浜大津まで路線の延長が出来たのは大正14年。）

京都市の地下鉄東西線の建設により、御陵以西の路線は変わりましたが、山科から浜大津までは現在の路線と変わっていません。ただし、追分から大谷までの線路は、昭和6年～8年に国道の逢坂山峠の大規模な改良工事が行われ、当初は北側から「旧東海道線路敷」・「国道」・「京阪電車京津線」と並走していた路線が、現在の「旧東海道



● ベンチの足の長さが違う
急勾配の大谷駅

線路敷（名神高速道路）」・「京阪電車京津線」・「国道1号線」に付け替えられました。
(文・松井佐彦)

バックナンバーご希望はコミュニティセンターまで

